

# ひだまり



令和5年2月21日(火)  
足立区立中川東小学校  
道徳通信 第10号  
校長 豊田 純子  
道徳教育推進教師 前田 康介

## ◇校内研究発表会 ～中東の道徳教育～◇

2月10日(金)地域の方々や近隣校の先生方をお招きして、校内研究発表会が行われました。中川東小学校が2年間研究を積み重ねてきた道徳教育(道徳授業)の成果や今後の課題を発表しました。

低学年・中学年・高学年・特別支援と4つのブロックの発表をした後、いくつかのグループに分かれて学校や家庭、地域で取り組んでいる道徳教育について話し合いました。

道徳教育とは、道徳科の授業のみを指すものではありません。子供たちの心を豊かにする教育活動のすべてが道徳教育にあたります。そのため、日々の子供たちとの関わりの中で、大人の私たちは子供たちに道徳教育をしてきているのです。話し合っている中で、地域の方がこんな話をしてくださいました。

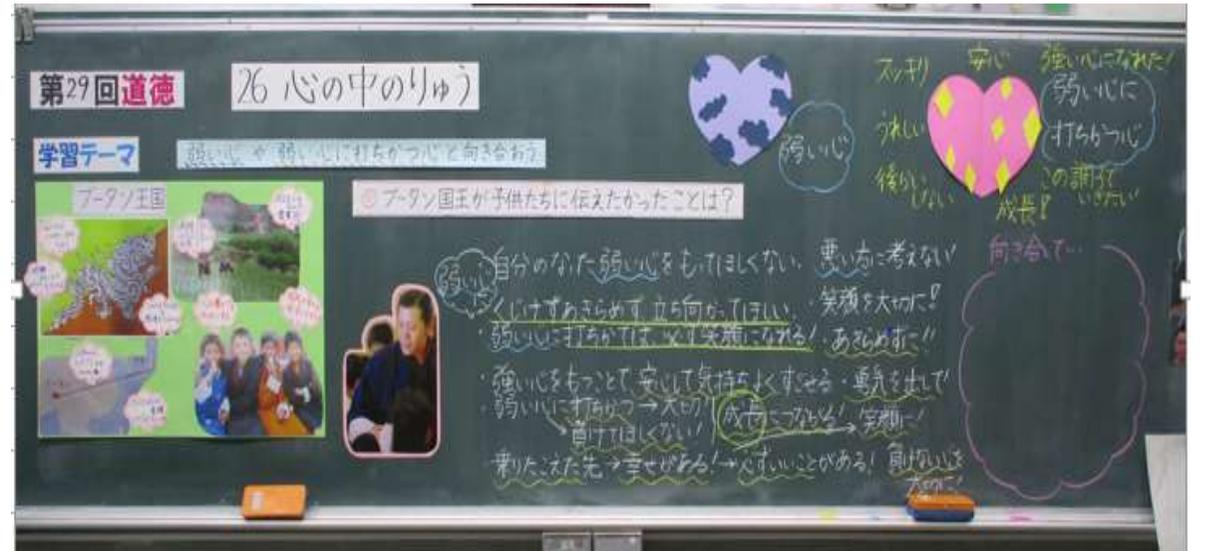
「高校進学を控えている子供たちが、夢や目標をもたずにいる。だから、高校に進学しても、不登校になってしまったり退学してしまったりする現状が増えている…。」この話を聞き、私はそのような現状に驚いたと同時に悲しい気持ちになりました。

私は、よりよい生き方のヒントを共に考えること、よりよく生きるために必要な心や態度(道徳性)を育むことが道徳授業の要だと思っています。地域の方が話して下さった子供たちの現状を、道徳教育(道徳授業)だけで改善を図ることはできません。ですが、道徳教育(道徳授業)を通して、「このままではいけない!」「どうにかしなきゃ!」と、よりよい生き方を見つめるきっかけを与えることはできるはずです。

中川東小学校の教員は、子供たちの道徳性を育むために様々な手立てや効果的な授業展開を考えてきました。各学級で実施した道徳アンケートにおいても、道徳授業に意欲的に取り組んでいる子供たちの割合は増加しています。また、自身の心を見つめたり、友達の考えや思いを聞き、自身の考え方や生き方を主体的に見つめ直したりする習慣が身に付き始めています。

2年間の道徳授業研究は終わりますが、今後も中川東小学校の子供たちの豊かな道徳性を育むため、教員一同効果的な授業を追究し実践していきたいと思えます。また、毎日の道徳教育の中でも、子供たちを温かく励まし、時には指導しながらよりよい生き方のヒントを子供たちと共に模索していきたいと思えます。

## ◇5年生の道徳の時間◇



<令和5年 2月16日 前田康介学級>

教材名: 『心の中のりゅう』

主題名: 「弱い心」と向き合おう

ねらい: 自分自身の弱い心に向き合い、よりよく生きようとする心情を育む。

今回のお話は、東日本大震災の被災地を表敬したブータン国王夫妻が福島県の小学生との交流の機会をもつ中で語りかけた「心の中のりゅう」の話を中心に、人間のもつ心の弱さに気付かせ、弱い心に負けない心や思い、考え方や生き方を追求するという内容です。

授業の始めに本時の主題について課題意識をもたせ、「弱い心に打ち克つ」ということに関する教材中容であることを事前に伝えました。また、子供たちがお話の内容を理解できるように、登場人物や国の状況を掲示物で確認しました。さらに、誰もが弱い心を持っていることや弱い心に負けてしまいがちな現状や弱い心に打ち克つことのよさや大切さを考えさせるために、被災した相馬市の小学校の子供たちに語ったブータン国王の思いを子供たちに考えさせました。人にも弱い部分があるといった人間理解にも繋げていきました。

このような手立てや発問を通して、授業の終わり(振り返り時)には「これまでぼくは色々なことを面倒くさがっていた。でもこれからは面倒くさいからやらないという弱い心に打ち克って、やるべきことはちゃんとやっていきたい」など、多くの子が自身のこれまでの生活を振り返り、今後のよりよい生き方を見出すことができました。